

【室町時代における関東での主な争乱】

争乱名称	発生時期	対立関係	概要
上杉禅秀の乱	応永23年 (1416年)	前関東管領 犬懸上杉氏 VS 鎌倉公方 足利持氏 山内・扇谷・宅間上杉氏	犬懸上杉氏が関東管領職を罷免されたため紛争に。犬懸上杉禅秀が自害し、犬懸上杉氏滅亡
小栗満重の乱	応永29年 (1422年)	小栗満重、北関東勢力 VS 鎌倉公方 足利持氏 山内・扇谷・宅間上杉氏	上杉禅秀の乱の結果を不満に思っていた小栗満重や北関東勢力が峰起。小栗満重は自害
永享の乱	永享9年 (1437年)	鎌倉公方 足利持氏 宅間上杉氏、北関東勢力 VS 山内・扇谷上杉氏	足利持氏と山内上杉憲実が対立。足利持氏、宅間上杉憲直が敗れ自害
結城合戦	永享12年 (1440年)	結城氏朝、北関東勢力 VS 山内・扇谷上杉氏	結城氏朝、北関東勢力が持氏の遺児を奉じて反乱。結城氏朝は討死
享徳の乱	康正元年 (1455年) ～ 文明15年 (1483年)	鎌倉公方 足利成氏(後の古河公方) 北関東勢力 VS 山内・扇谷上杉氏	足利成氏が山内上杉憲忠を殺害したことで始まった争乱。足利成氏が古河に逃げ延びたことで北関東と南関東の抗争は28年間の争乱となる
長尾景春の乱	文明8年 (1476年)	長尾景春 VS 山内・扇谷上杉氏	享徳の乱の最中に、長尾家の家督争いから、家督を継げなかった長尾景春が味方である山内・扇谷上杉氏を攻撃。太田道灌が鎮圧
長享の乱	長享元年 (1487年)	山内上杉氏 VS 扇谷上杉氏 古河公方、長尾景春、今川氏、伊勢氏が支援	扇谷上杉定正が家臣で家宰の大田道灌を暗殺したことにより、扇谷上杉家中が混乱。扇谷滅亡の好機と捉えた山内上杉氏が扇谷上杉氏を襲撃